



西新潟中央病院

NST NEWS 第2号

NST: Nutrition Support Team

発効日: 2013年11月12日

担当: NST委員会

編集: 栄養管理室

連絡先: 内線 1303

NSTミニレクチャー 第2回 ～簡易懸濁法のお話～



月に1度の栄養の勉強、NSTミニレクチャーのコーナーです。第2回は、簡易懸濁法のお話です。

Q・簡易懸濁法とはどのようなものですか？

A・簡易懸濁法は錠剤粉碎やカプセル開封をせずに、錠剤・カプセルをそのまま、あるいはコーティングに亀裂を入れて、温湯（約55℃）に入れ、崩壊・懸濁させて経管投与する方法です。

Q・なぜ55℃、10分間で崩壊・懸濁させるのですか？

A・水温を約55℃に、時間を10分間に設定した理由はカプセルを溶かすためです。

カプセルは、日本薬局方の純度試験で「水50mLを加え、37±2℃に保ちながらしばしば振り動かすとき、10分以内に溶ける」と規定されています。つまり、確実にカプセルを溶解するためには、水温を37℃以上に10分間保持する必要があります。しかし、投薬の現場で水温を37℃に保持することは難しく、また温度を高くしすぎると安定性に問題が生じる薬品もあります。そのため簡易懸濁法では、室温に10分間自然放冷したときに37℃以下にならない温度を検討し、最初の温度を55℃と設定しています。

Q・懸濁用の温湯はどのように用意しますか？

A・55℃の温湯の作り方にはいくつかの方法があります。

① 水道の蛇口

病棟ナースステーションの蛇口の水を一番熱くして出すと55℃近辺になることが多くあります。ただし、季節や地域などの環境により変わるので確認が必要です。また、一度、水質検査および細菌検査を行ってから使用した方が良いかもしれません。



② 通常の湯沸しポット

ポットの湯と水道水が2:1になるように入れるとだいたい55℃となります。

③ 温度設定できる湯沸しポット

ミルク保温用に60℃の設定ができるポットが市販されているので、この機能を利用します。



④ 湯沸しポットなどの熱湯を冷ます

ポットの熱湯や蛇口からの熱湯を容器に入れて放冷する方法もあります。

Q・タケプロンOD錠の懸濁方法は？

A・タケプロンOD錠は水で崩壊させます。タケプロンOD錠には添加剤としてマクロゴール6000が入っています。マクロゴール6000は56～61℃で凝固するため、タケプロンOD錠を崩壊させる温度が高すぎるとチューブに入る前に固まってしまうので、熱いお湯は絶対に使用しないで下さい。



因みに、マグコロールPという薬品もありますが、こちらの成分はクエン酸マグネシウムで、大腸検査・腹部外科手術前処置用下剤です。全く別物ですのでご注意ください。

(文責: 薬剤科 狩野哲也)

NST研修のお知らせ

他院から研修生を迎えて行っていた研修が、11/5に無事終了いたしました。ご協力ありがとうございました。次回は来年春に開催予定です。

編集後記

日に日に寒さが厳しくなり、体調を崩している方も多いのではないかと思います。風邪には今が旬の柿が糖分、ビタミンCが多くおすすめです。